

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

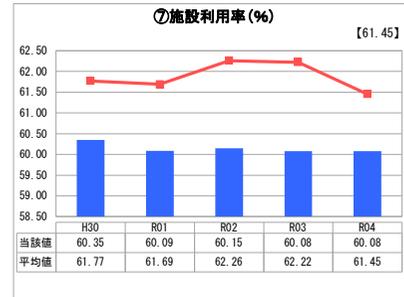
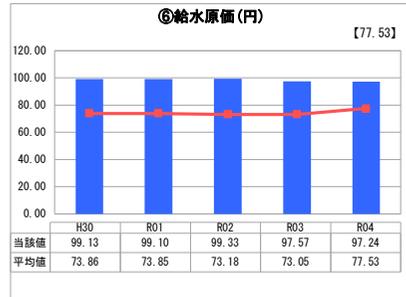
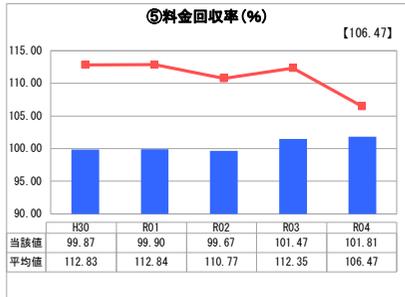
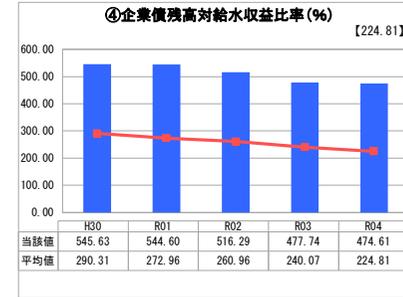
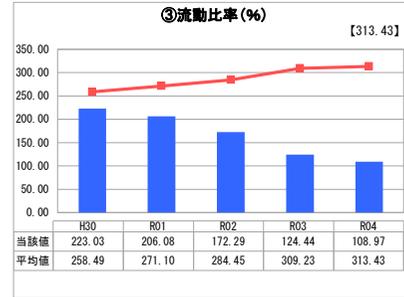
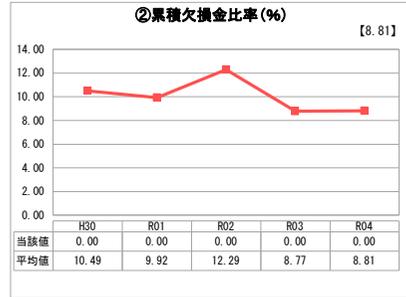
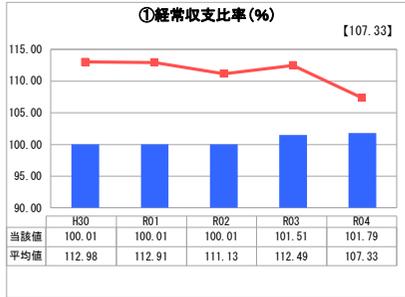
石川県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	34.53	98.86	0	

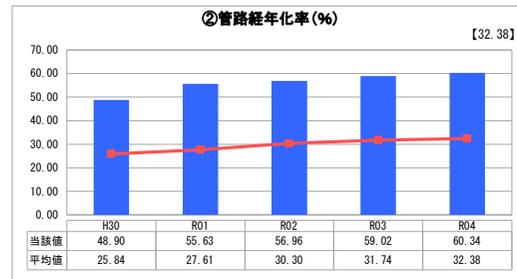
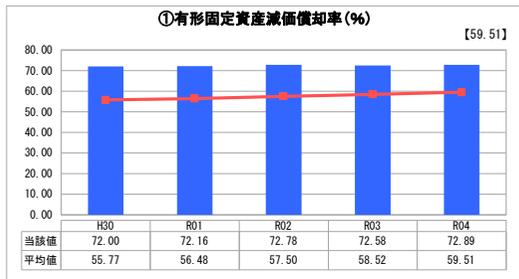
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,117,303	4,186.20	266.90
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,024,635	875.96	1,169.73

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、平成24年度以降100%以上を維持し、収益が費用を上回る状況が続いています。
- ②累積欠損金比率は、平成29年度に累積欠損金が解消してから、0%を維持しています。
- ③流動比率は、近年低下を続けていますが、目安となる100%以上を維持しています。
- ④企業債残高対給水収益比率は、各年度の送水管耐震化(2系統化)事業に係る借入額の変動等により、近年は低下または横ばいとなっています。
- ⑤料金回収率は、平成30年度から令和2年度において100%を下回りましたが、令和3年度以降は100%を上回っています。
- ⑥給水原価は、平成30年度以降、ほぼ横ばいとなっています。
- ⑦施設利用率は、ほぼ横ばいで推移しています。
- ⑧有収率は、100%に近い値で推移しており、効率的な給水ができていく状況を示しています。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較高い傾向にあり、昭和55年の給水開始当時の資産をはじめ、保有資産のうち法定耐用年数に近づいている資産の割合が増加していることを示しています。
- ②管路経年化率は、類似団体と比較高い傾向にあります。
- ③管路が1系統のため、管路更新率は0%で推移していますが、平成22年度からは2系統化事業を推進しています。

### 全体総括

経営状況は、平成29年度決算において累積欠損金が解消されましたが、引き続き、送水管耐震化(2系統化)事業に係る企業債や減価償却費の増加が見込まれるため、さらなる経営健全化に取り組んでいくこととしています。